

他者と協働し、豊かな言語生活を実現する国語学習 —学びを通して身に付けた言葉の力を日常生活で生かそうとする—

言語部 研究主題

言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくり

第2学年国語科学習指導案

単元名 かるたでレベルアップ！（仮） ～できるようになったことをかるたで伝え合おう～

学習材名（開発単元のため、学習材なし）

第1会場 品川区立大井第一小学校
日時：令和8年2月20日(金)5校時
児童：品川区立大井第一小学校 第2学年竹組 35名
担任：品川区立大井第一小学校 主任教諭 山崎 香苗
指導者：品川区立戸越小学校 主任教諭 工藤 洋子

第2会場 台東区立松葉小学校
日時：令和8年2月20日(金)5校時
児童：台東区立松葉小学校 第2学年1組 20名
担任：台東区立松葉小学校 主幹教諭 関 和也
指導者：西東京市立けやき小学校 教諭 名古屋廣美

1 単元の目標

- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
〔知識及び技能〕(1)ア
- 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

2 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 (1)ア	①「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア)	①粘り強く経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって書こうとしている。

3 単元構想

(1) 児童について（児童観）

・第1会場

国語の学習への意欲は比較的高い。半数ぐらいの児童は書くことへの苦手意識はなく、クラスの大体の児童が抵抗感なく書くことができる。4月から毎週末に日記を宿題にし、「はじめ」「中」「終わり」の構成や、会話を意識して書くことを大切に指導してきた。行事ごとにも文章を書き、「書くこと」の学習には親しんでいる。

一方、様子を詳しく書くことについては、「楽しかったです」と簡単にまとめて書いてしまうことが多く、様子を詳しく書くことができる児童はまだ少ない。様々な言葉や表現を用いて、様子を詳しく書くことができないようにしたい。そこで、より言葉に立ち止まって考える機会を設けるため、11月から学習者用端末を用いて言葉や表現を集める「ことばカード」に取り組み、自分のもつ言葉や表現の幅を広げている。

・第2会場

5月から継続して日記を2週間に1回程度書くことに取り組んできた。長い文章を書くことに抵抗はなく、ノート2ページ程度の量の日記を書くことができる。多くの児童がその日の出来事を時間の流れに沿って書くことはできている。しかし、伝えたい内容をしぼり、様子を詳しく書くことができる児童は、まだ少ない。語彙が少なく言葉や表現が「楽しかった」や「すごい」などでとどまってしまうところがある。また、表記の誤りがないかを確認、言葉や表現を検討する姿はあまり見られない。11月からは、より言葉に立ち止まって考える機会を設けるため、国語科の学習を中心として、新しく知った言葉や自分が大切にしたい言葉を「ことばノート」に書き残している。

そこで、本単元では、一人一人が書きたいと思える題材に出合えるよう、「2年生になってできるようになったこと」を取り上げて書く。これまでの経験を振り返り、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を表す言葉や表現を集め、短い文で書き、かるたの読み札とする。自分が伝えたい事柄を、どのような言葉や表現を使って書いたらよいかを考え、友達と確かめ合いながら言葉や表現の幅を広げていけるようにしたい。

(2) 学習材について（学習材観）

①かるた

かるたとは、読み札と絵札に分かれた2種類の札を使い遊ぶカードゲームである。競技かるたとして知られる「百人一首かるた」の他にも、ことわざを集めた「いろはかるた」や各地の自然・歴史・産業・文化を詠んだ「郷土かるた」など、様々な種類のものがあり、古くから文字や知識を遊びながら身に付けることにも使われてきた。多くの児童が幼稚園や保育園でかるた遊びを経験しており、生活科の単元で「昔遊び」の一つとして遊んだことがある児童もいる。仲間と一緒に遊ぶ楽しさだけでなく、素早く札を取ったり、多くの札を取ったりすることで達成感を味わうことができ、札を読む人と札を取る人という役割を交代しながら、繰り返し遊ぶことができる。かるたの読み札は短い文で書かれ、「五・七・五」や「五・七・五・七・七」といった音数を用いて、言葉のリズムを感じながら読めるものが多い。また、読み上げられた文に対応する絵札と合わせることで、文の内容がより具体的・視覚的にイメージされるといった特徴をもつ。

本単元では、音数にはこだわらず、読み札を短い文で書くことを目指す。短い文で書くためには、言葉や表現を集め、検討し、選択する必要が生まれる。短い文で表現し切れない事柄は絵札で補うこともできる。また、絵札と読み札を往還して考えることで、その時の様子を想起しやすく、より言葉や表現に着目し、焦点化することができる。第2学年の児童が言葉や表現を比較し、選択しながら自分の思いや考えを書くことに適していると考えた。

かるたで遊び、児童がその特徴に気付きながら単元の言語活動への方向付けがなされるよう、読み札に様子を詳しくする表現が含まれているかるたを教室に置いて自由に遊べる環境を整えた。

②題材

本単元で作成するかるたは、日常生活で児童ができるようになったことを題材とする。体育科の鉄棒遊びや長縄跳び、算数科の筆算などの学習、給食や掃除、日々の友達同士の関わりの中から、一人一人が第2学年になってできるようになったことを見付けて題材とする。できなかったことができるようになった喜びや達成感といった個人の嬉しい体験を題材にすることで、児童の書く意欲を引き出すことができると考えた。また、できるようになったことの中には、学校での共通体験が基になっているものも多く、友達と言葉や表現を集めたり、検討したりする協働的な学習につながると考えた。

単元の導入部で、指導者が第2学年の頃にできるようになったことを書いた作文を示し、児童にもできるようになったことやその時の様子を思い出してみるよう促すことで、書くことの題材と出合わせる。

③着目させたい言葉や表現（様子を詳しくする表現）

自分ができるようになったことについて、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を短い文で伝えるためには、言葉や表現を選択しなければならない。本単元では、「比喩」「オノマトペ」「程度」に着目させ、これらの言葉や表現を使うと様子が詳しく伝わることに気付かせたい。「比喩」「オノマトペ」「程度」といった表現の工夫は、既習の学習材の中に使われており、「読むこと」の学習で児童はそれらの言葉や表現に着目して場面の様子を具体的に想像してきた経験がある。本単元では、動作化や経験の想起、言葉や表現の有無を比較するといった「語句をより理解するための方策」を使い、自分が伝えたいことに合った言葉や表現を選べるようにしていきたい。単元の導入部で、これらの表現の工夫を用いた指導者の作文を示し、様子を詳しく表す言葉や表現について児童が意識できるようにする。

④「ことばカード・ノート」

「ことばカード・ノート」は、児童が日常生活の中で使ってみたいと思った言葉、興味をもった言葉を書き溜めていくカード・ノートである。「見付けた言葉」「いつ・どこで・何から・誰から」「理由・意味」を書けるようにし、継続して取り組むことができるようにする。書き溜めていく中で、「ことばカード・ノート」に集めた言葉を使って文章を書いたり話したりするなど、日常生活の中で生かしていく。本單元においても、友達との対話を通して新たに知った言葉や表現、自分が大切にしたいと感じた言葉や表現を「ことばカード・ノート」に書き溜め、本單元終了後にも継続して活用できるようにする。

(3) 単元について（単元観）

本單元では、第2学年になってからの経験を振り返り、できるようになったことを見付け、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫について、自分の思いや伝えたいことが明確になる言葉や表現を選択して書くことをねらいとしている。また、かるたの読み札を書くことを通して、言葉には事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこともねらいとしている。

そこで、言語活動に対する児童の興味・関心を引き出し、見通しをもって学習を進めることができるよう単元全体を【出合う】【親しむ】【生かす】の三つの段階で構成した。

【出合う】…できるようになったことを集めたかるたを作るという見通しをもつ。共通の題材を用いてかるたの読み札を書き、どのような言葉や表現を選択するとよいのかについて考える。
【親しむ】…題材となる「できるようになったこと」を決め、言葉や表現を考え、選択する。友達と一緒に考えたり確かめたりしながら、自分の思いや伝えたいことが明確になる言葉や表現を選択して短い文を書く。
【生かす】…完成したかるたを友達と読み合って遊び、読み札の文に使われている言葉や表現についての気付きを出し合う。

【出合う】…できるようになったことを集めたかるたを作るという見通しをもつ。

…共通の題材を用いてかるたの読み札を書き、どのような言葉や表現を選択するとよいのかについて考える。

【出合う】段階では、第2学年の頃にはできるようになったことを書いた授業者の作文を読む。その後、第2学年になってからの経験を振り返り、自分ができるようになったことを150～200字程度で書く。児童それぞれができるようになったことや、できるようになったときの喜びや達成感を共有し、いろいろなかるたで遊んだ経験を想起して、できるようになったことを集めてかるたを作ることができそうだという見通しをもつ。できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫をかるたの読み札にすると、自分たちの成長や嬉しかった経験を残しておけることや、でき上がったかるたで何度も遊びながら、できた経験を友達と伝え合えることから、学習課題を設定し、学習計画を立てる。

学習の進め方を知るために、多くの児童ができるようになってきている縄跳びを共通題材として取り上げ、読み札を書く。縄跳びをしている様子を動画で視聴し、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を表す言葉や表現を考えて集める。グループに分かれ、集まった言葉や表現を選択して短い文を書き、発表する。児童の書いた文の中から、様子を詳しくする表現の工夫を取り上げ、語句をより理解するための方策を使って伝える内容を確認めたり比べたりすることを通し、どのような言葉や表現を選択するとよいのかについて考える。

【親しむ】…題材となる「できるようになったこと」を決め、言葉や表現を考え、選択する。

…友達と一緒に考えたり確かめたりしながら、自分の思いや伝えたいことが明確になる言葉や表現を選択して短い文を書く。

【親しむ】段階では、「学びの手引き」を基にして自分に合った学習進度や学習順序で取り組む。できるようになったことの中から、かるたの札にしたい題材を決め、かるたの読み札でどんなことを伝えたいのかという個人課題を考える。できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を表す言葉や表現を考えて集める。友達と一緒に考えたり確かめたりしながら、自分の思いや伝えたいことが明確になる言葉や表現を選択して短い文を書く。その際、【出合う】段階の学習を想起し、様子を詳しく表す言葉や表現の工夫を意識できるようにする。「お試し読み札」としていくつかの文を書き、自分の思いや伝えたいことが明確になっているかを読み返したり、友達に読んでもらって確かめたりして個人課題に合うと思う文を選択したり、言葉や表現を見直したりして読み札を書き上げる。表記の仕方や文字の誤りがないかどうかを確認め、必要に応じて修正し、清書する。最初に絵札を描き、できたときの様子や気持ちをイメージして文を書くことにつなげたり、

読み札と絵札を並行してかいたり、対となる二枚の札を作る過程については児童が自由に選択できるようにする。

【生かす】…完成したかるたを友達と読み合って遊び、読み札の文に使われている言葉や表現についての気付きを出し合う。

【生かす】段階では、友達と作ったかるたで遊び、単元の学習を振り返る。自分の読み札について、いくつか書いた「お試し読み札」の中から選択した理由や、なぜその言葉や表現を選択したのかなどについて、友達と話し合う。できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を表す言葉や表現についての気付きを出し合い、どのような言葉や表現を選択すると自分の思いや伝えたいことが明確になるのかを考える。

単元終了後には、自分が経験したことを焦点化して書こうとしたり、相手に伝えるために言葉や表現を選択しようとする姿や、自分の伝えたいことを明確にして、相手に伝わるかを意識しながら書いたり話したりする姿など、豊かな言語生活へとつながる児童の姿が見られるようになることを期待したい。

4 研究主題に迫るために

(1) 「言葉による見方・考え方」を働かせる学びをつくる。

「言葉による見方・考え方を働かせる」児童の姿

言語部では「言葉による見方・考え方を働かせる」とは、「言葉に着目し、意味や役割、効果を考え、意識して使おうとすること」であると考え。

児童が、自分の思いを表現したり情報を基に自分の考えを形成したりしようとする際に、言葉の意味や効果に着目し（言葉による見方）、比較や類推等の概念的思考を働かせて考え（言葉による考え方）、より適切に判断しようとしている姿が、「言葉による見方・考え方を働かせる」姿である。さらに、「言葉による見方・考え方を働かせて言葉を使い、言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすることで、「言葉のよさ（役割や効果）」を実感し、言葉への自覚を高めていく。これらの経験を重ねていくことが児童の語彙を豊かにし、豊かな言語生活者が育つ基盤となると考える。

「書くこと」の学習では、様々な言葉や表現に着目し（言葉による見方）、比較したり類推したりして（言葉による考え方）、自分の思いや伝えたい内容に対して適切な言葉や表現を選択しようとする姿が、「言葉による見方・考え方を働かせている」姿である。それぞれの学習過程の中で、どの言葉や表現がより適切なのかを比較し、言語感覚（語感や言葉の使い方に対する感覚）を意識して最適なものはどれかを考え判断しようとする際に、「言葉による見方・考え方を働かせる」のである。（別紙資料①参照）

本単元は、第2学年になってできるようになったことについて経験を振り返り、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫を短い文にして、かるたにすることを通して、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと（知・技（1）ア）をねらいとしている。「この言葉や表現を使うと、みんなにできたときの嬉しい気持ちが伝わるかな」と言葉や表現に着目したり、「『～みたい』を使うと分かりやすいかもしれない」「『とんとん』って音を入れてみようかな」「『くるくる』と『くるんくるん』は似ているけれど、ちょっと違うな」など様子を詳しくする言葉や表現（比喩、オノマトペ、程度）を選ぼうとしたりしている姿が、本単元における「言葉による見方・考え方を働かせる」児童の姿である。

会場校の児童は、4月以降、日常生活や各教科の学習に関連した共通の題材で文章を書くことに取り組んできた。多くの児童が時間の流れに沿って出来事を書くことはできているが、伝えたい内容をしぼり、様子を詳しく書くことは難しい。そこで、できるようになったことを短い文にして、かるたにすることを通して、できるようになったことを焦点化し、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫について、様子を詳しくする言葉や表現（比喩、オノマトペ、程度）に着目して比較する。そして、言葉や表現を選択し、自分の思いや伝えたいことを明確にしようとする姿を目指す。

本単元における「言葉による見方・考え方を働かせる」ための方策

【出合う】…できるようになったことを共有し、単元の学習課題や題材を設定しながら、短い文にする必要感やかるたにするよさを生み出す。（第1・2時）

単元の導入部で、第2学年になってできるようになったことを150～200字程度の文章に書く。第1時で全体共有し、友達ができるようになったことを知って、「できるようになってよかったね」「どうしたらできるようになったのかな」「僕もできるようにになりたいな」など方法や工夫を聞きたくする意欲が高まっていくと予想される。また、かるたを作って遊ぶという見通しをもつことで、短い文にぴったりの言葉や表現を考えたり集めたりする必然性や言葉や表現を見直す必要感も生まれるだろうと考えた。

【親しむ】…短い文に書いた言葉や表現で自分の思いや伝えたいことが明確になっているか、友達と確かめながら見直す。（第4・5時）

第3時以降は、自分ができるようになったことに関連した言葉や表現を集めたり確かめたりしながら、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫について、自分の思いや伝えたいことが明確になるように短い文にしていく。まず、自分の思いや伝えたいことが明確になるように短い文にぴったりな言葉や表現を集め、選択する。そして、友達と確かめながら、自分の思いや伝えたいことが明確になっているか言葉や表現を見直す。その過程で、「言葉による見方・考え方」を働かせて、自分の思いや伝えたいことが明確になるように言葉や表現を選択しようとする可以考虑。

(2) 児童が（本単元において）身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める。

「児童が身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」姿

言語部では、「児童が身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」姿とは、児童が「〇〇したいな」という思いをもち、その実現のために「どのような言葉や表現に着目したらよいか」、また「どのように学習を進めたらよいか」と考え、行動することだと考える。

そのためには、学習の対象との「出会い」が大切となる。児童自身が「身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」ためには、児童の課題意識を十分に醸成することが不可欠である。「出会い」の学習材や活動を工夫し、自然と「～したい」という意欲や、「どの言葉を選ぶとよいだろうか」という課題意識が生まれ高まっていくように単元を構成していく。児童の高まった思いを基に単元の学習課題を設定し、その中で一人一人が「自分は〇〇を～したい」というように個人課題を設定していく。また、児童自身が見通しをもって学習に取り組むためには、単元の学習計画を立てることも欠かせない。個人課題をもち、どのように学習を進めていくのかの見通しがもてていることで、自分の学びを振り返り自己調整ができるのである。（別紙資料②参照）

「書くこと」においては、「〇〇に～を伝えたい」という自分の思いや考えをもち、「相手、目的や意図、場面や状況に応じて、どのように言葉や表現を使うとよいのだろうか」と考え言葉や表現を比較・検討し、判断・選択している姿を「身に付けたい力を意識している」姿であるとする。また、「単元の学習計画を立て、次は何をするのかという見通しをもって学習に取り組む」姿や「方法や対話の相手を必要に応じて選択している」姿、「毎時間の進み具合を振り返って、次の時間に行うことを考えるなど自己の学びを調整している」姿を「自ら学びを進める」姿であると捉える。

会場校の児童には、「できるようにになったこと」という嬉しい経験の中から題材を選び、「〇〇ができたときは、～だった」「〇〇できて嬉しかった」といった、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫を伝えたいという思いを高められるようにする。そして、短い文で書くためには、どのような言葉や表現を選択すると自分の思いや伝えたいことが明確になるかを考え、言葉や表現を集めたり確かめたりしながら選択していく姿を目指す。第2時では、共通の題材で札を書く。児童が書いた文を取り上げ、「語句をより理解するための方策」を使い、動作化や経験の想起、言葉や表現の有無を比較することなどを通して、言葉や表現から受け取る内容や感じ方の違いに気付かせる。第3時からは「学びの手引き」を参考にしながら、各自が選んだ題材について短い文を書いていく。自分の思いや伝えたいことについて、様子を詳しく表す言葉や表現を考えながら言葉や表現を集め選択したり、自分の思いや伝えたいことが明確になっているかを友達と確かめたりして、行きつ戻りつしながら自分の思いや伝えたいことが明確になっている短い文を書き上げる姿が見られることを目指す。

本単元における「児童が身に付けたい力を意識し、自ら学びを進める」ための方策

【親しむ】…できるようにになったことの中から自分が伝えたいことを決め、個人課題を設定する。（第3時）

第3時では、できるようにになったことの中から、かるたの札にしたい題材を設定し、短い文を書く。第2時で設定した「できるようにになったことを短い文で伝え合おう（仮）」という単元の学習課題から、自分の思いや伝えたいことが明確になるように個人課題を設定する。「〇〇ができたときの気持ちを知ってほしい」「〇〇ができたときの様子を伝えたい」「〇〇ができたときに発見した方法を知らせたい」など、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫の中から何を伝えるのかを児童自身が具体的に課題設定できるようにする。個人課題を設定することで、短い文にするために「どのような言葉や表現が自分の思いや伝えたいことにぴったりなのか」を考えて学習を進めたり、個人課題を振り返ったりすることが、「身に付けたい力を意識する」ことである。その際、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫を短い文にし、自分の思いや伝えたいことを明確にすることを確認する。

また、短い文にするためには言葉や表現を判断・吟味し、選択することが欠かせない。その際、友達と「できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫の中から何を伝えるのか」という個人課題を確認したり実際に題材を試したりすることで、短い文にするためにはどのような言葉や表現を選択すればよいのかと判断・吟味し、選択しながら、「身に付けたい力を意識して」学習に取り組むことができる。

【親しむ】…単元の学習計画を児童とともに立てる。（第2時）

…活動の見通しや振り返りを行いながら自分の進度でかるた札作りを進める。(第3～5時)

第3～5時は、個人、友達と相談しながらかるた札作りを進める。そのために、第2時に学級全体で単元の学習課題を設定し、学習計画を立てて活動の見通しをもつ。その学習計画から作成した「学びの手引き」を基にして、第3時以降、自分に合った学習進度や学習順序で取り組むことができるようにする。毎時間、「学びの手引き」を使い、個人課題を達成するために「何をするのか」「どのように進めるのか」を確認してから学習を始める。毎時間の終わりには「どこまで進んだのか」「次は何をするのか」を振り返り、次時の見通しをもつことを目指す。また、できるようになったことの中から題材を設定し、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫について、様子を詳しくする言葉や表現(比喻、オノマトペ、程度)を整理して集める表形式(わくわくシート)と、自由に広げつなげるマップ形式(のびのびシート)の2種類のワークシートを用意し、自分の取り組みやすいシートを選択できるようにする。

学級全体で学習計画を立て、個人で「学びの手引き」を使い、ワークシートを選択しながら、かるたの札作りの学習進度や学習順序を決めて行きつ戻りつしながら、必要に応じて困っている友達と一緒に文を考えたり、二つめの題材について文を書いたりするなどして、学びを調整しながら「自ら学びを進める」ことができる。

(3)学習活動(言語活動)において、自らの考えをもち、多様な考えをもつ他者と関わり協働する中で、新たな考えをもつ。

言語部では、児童の言語感覚を養い、語彙を豊かにすることが、言葉に対する「自分の考えをもつ」ことだと考える。児童の語彙を豊かにするためには、他者との関わりが不可欠である。国語科の学習の場だけでなく学校生活や日常生活の場面で、同年代、年上、年下など様々な人と関わる中で、新たな言葉との出会いが生まれ、対話を通して言葉の意味や役割、効果を知ることができる。人から発せられた直接的な言葉に関わるだけでなく、書物や音声や映像、伝統的な言語文化等の言葉との間接的な関わりによっても言葉との出会いは生まれる。他者との関わりの中で新たな言葉と出会い、語彙が広がっていくのである。

「言葉による見方・考え方」を働かせ、どの言葉や表現がより適切なのかを比較する際には、語句を理解するための方策「①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化」を使って考える。その際、友達とどのような言葉や表現があるかを出し合ったり、それぞれの言葉や表現からどのような印象を受けるかを話し合ったりすることが欠かせない。他者と関わり協働することにより、「新たな言葉との出会い」や「言葉の意味や役割、効果」「人による感じ方の違い」等に気づき、言葉への理解を広げたり深めたりすることができる。学習の中でこれらの経験を重ねることで、児童の言語感覚を養い、語彙を豊かにしていくことを目指す。

本単元では、できるようになったことの中から題材を設定し、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫について、かるたの読み札となる短い文を書くことを通して、様子を詳しくする言葉や表現(比喻、オノマトペ、程度)を集め、判断・吟味し、選択していく。かるたの読み札作りを進めていく中で、友達と「何を伝えたいのか」という個人課題を確認し、書いた文について話しながら、自分の思いや伝えたいことが明確になっているかの度合いを知り、自分の思いや伝えたいことが明確になる言葉や表現を選択できているかを確認していく。友達と一緒に考えたり確かめたりしながら別の言葉や表現に出合ったり、同じことを伝えるにも言葉の選択が多様なことに気付いたりすることもできる。友達との確かめ合いの中で出てきた言葉や表現を参考にしながら、「自分の思いが伝わる言葉や表現になっているか」「この言葉や表現で自分の伝えたいことがはっきりするか」について考え、言葉や表現を選択することを通して、児童の言語感覚を養うことができると考える。

本単元における単元構成の工夫や言語活動の工夫

【出合う】…共通のできるようになった題材でかるたの読み札を作る。(第2時)

第2時では、縄跳びができるようになったことを想起し、グループで短い文を書く。グループで言葉や表現を集めたり短い文を書いたりしていく過程で、友達と一緒に考えたり確かめたりしながら、別の言葉や表現に出合ったり同じことを伝えるにも言葉の選択が多様なことに気付いたりすることができる。

【親しむ】…友達との確かめ合いの中で出てきた言葉や表現を参考にしながら、自分の思いや伝えたいことに合わせて言葉や表現を選択する。(第4・5時)

第4・5時では、書いた文を友達と読み合い実際に試したり、困っているときは一緒に文を書いたりして、言葉や表現を選択していく。友達との確かめ合いの中で「自分の思いが伝わる言葉や表現になっているか」「この言葉や表現で自分の伝えたいことがはっきりするか」などを考え、言葉や表現を選択していく。「『つかむ』と『握る』はどっちがいいかな」「『ぎゅっと』と『ぎゅうっと』はどのように違うかな」「『バン』か『トン』か、もう一度試してみようよ」など友達と確かめたり試したりしながら言葉や表現を比較・検討し、どの言葉や表現にするのかを自分で判断・選択することができる。

【生かす】…作ったかるたで遊び、感想を伝え合う。(第6時)

第6時では、作ったかるたで、学級の友達と遊ぶ。「できたときの様子や気持ちは何か」「経験を通して掴んだ方法や工夫は何か」「自分の思いや伝えたいことは明確になっているか」「どんな言葉や表現を使っているか」「この言葉や表現のよさは何か」「短い文を書くときに、どんなことを大切にしたいか」などについて振り返りをする。

「○○という言葉がよかった」「この言葉を使ってみたい」「札を増やしたい」「1年生とも遊んでみたい」など、かるた遊びや自分と友達の振り返りから、今後の生活でも言葉や表現を使ってみたり、文を書くときに生かしたりしたいという気持ちを醸成することができる。また、この単元で活動を閉じることなく、札を増やしたり新たな題材で作り続けたりすることもでき、自分の思いや伝えたいことを明確にするために言葉や表現について継続して考えることができる。

(4)獲得した言葉の力を日常生活に活用し、言語生活を豊かにする。

言語部が目指す豊かな言語生活とは、言葉そのものへの興味・関心をもったり、意識して言葉を使いよりよく人と関わったりしながら生活することである。

本単元で児童は、できるようになったことを題材としたかるたの読み札を作ることを通して、主に以下の二つの言葉の力を獲得する。

①言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。(知・技(1)ア)

②「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。(思・判・表B(1)ア)

今回の学習では、自分の思いや伝えたいことを明確にして、短い文を書く。本単元では、「○○ができたときの気持ちを知ってほしい」「○○ができたときの様子を伝えたい」「○○ができたときに発見した方法を知らせたい」という個人課題から、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫について、かるたの読み札と絵札を作る。かるた札作りでの確かめ合いや、できたかるたで一緒に遊ぶことを通して、友達との関係が深まったり新しい関係が生まれたりするだろう。そして、日常生活で実際に試すことで、「言葉通りにしてみたら分かった」「本当に○○ができるようになった」など、言葉には経験したことを伝える働きがあることを実感するだろう。このような経験を重ねていくことで、相手との関係もさらに広がったり深まったりするだろう。

かるたを作る際には、自分の思いや伝えたいことが明確になる言葉や表現になっているかを考え、選択していく。その際には、友達と一緒に考えたり確かめたりしながら、文を書く。どのような言葉や表現を使うと自分の思いや伝えたいことが明確になるのかというように、相手のために言葉や表現を選択して短い文を書く必要感が生まれる。どのような言葉や表現を選択すると相手に自分の思いや伝えたいことが明確になるのかを考えたり、明確になっているかを確かめながら書き直したりすることの大切さにも気付かせていく。

【生かす】…単元終了後の日常生活において、本単元で獲得した言葉の力を活用しようとする。(単元後)

本単元で、児童は「自分の思いが明確に伝わるように言葉や表現を比較・検討し、判断・選択する」こと、「短い文を書くためには言葉や表現を比較・検討し、判断・選択する」こと、「相手のために言葉や表現を比較・検討し、判断・選択する」ことを学ぶ。

単元終了後には、以下の四つの姿が現れることを期待する。

ア：言葉そのものへの興味・関心

自分もっている言葉や表現だけでなく、見聞きした他の言葉や表現にも興味をもっている。

イ：自己内対話

経験したことや想像したことを焦点化して、自分の伝えたいことが明確になるように書いている。

ウ：他者とのコミュニケーション

①相手に伝わるかを意識しながら、言葉や表現を選択して書いたり話したりしている。

②思いや考えを伝え合いながら、相手との関係を広げたり深めたりしている。

今後の学習や、学校生活、日常生活の中で、これらの姿が現れることが、本単元で獲得した言葉の力を活用していることである。これまで述べてきた学習の経験を重ね、語彙を豊かにしていくことが、児童の言語生活を豊かにしていくことであると考えられる。

想定される本単元で獲得した言葉の力を活用しようとしている場面

場面	具体的な姿
学習	ア：「書くこと」の「冬がいっぱい」の学習では、冬を感じる言葉や詩を見付け、自分の感想を添えた冬のカードを作り、友達と互いのカードを読み合っている。 ア：「読むこと」の「スーホの白い馬」では、学習材にある「はねおきる」という複合語に着目して意味を考え、二つの言葉が一つになって使われている言葉を集めて友達と紹介し合っている。

	<p>イ：「書くこと」の「二年生を振り返って」の学習では、題材を設定したり情報を収集したりする際に、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にして書いている。</p> <p>ウ①：「話すこと・聞くこと」の「楽しかったよ二年生」の学習では、相手に伝わるかを考えながら言葉や表現を選んでスピーチメモを作り、話している。</p> <p>ウ②：「書くこと」の「すてきなところをつたえよう」の学習では、友達との関わりを振り返り、すてきだと感じたことを手紙で伝えることで、友達との関係を広げたり深めたりしている。</p>
学校生活	<p>ア：全校朝会の講話や縦割り班の異学年交流などで見聞きした言葉に関心をもち、意味を尋ねたり、推測したりしている。</p> <p>イ：各教科の学習や、学習発表会などの行事の振り返りをするときに、経験したことを焦点化し、伝えたいことが明確になるように書いたり話したりしている。</p> <p>ウ①：学校生活の中で、自分の思いや考えが、教師や友達に伝わるかを意識しながら書いたり話したりしている。</p> <p>ウ②：各教科の学習や特別活動の話し合いで、自分の思いや考えを伝え合いながら友達との関係を広げたり深めたりしている。</p>
日常生活	<p>ア：友達や家族が使っている言葉の意味を尋ねたり、言葉カードに気になる言葉や表現を書き留めたりしている。</p> <p>イ：日記を書くときに、自分が経験したことを焦点化したり、家族や親戚、友達、近所の人や習い事の先生などに対して自分の伝えたいことを明確にしたりして書いている。</p> <p>ウ①：自分の思いや考えが伝わるかを意識しながら、家族や親戚、友達、近所の人や習い事の先生などに言葉や表現を選んで書いたり話したりしている。</p> <p>ウ②：日常会話の中で、自分の思いや考えを伝え合いながら周りの人との関係を広げたり深めたりしている。</p>

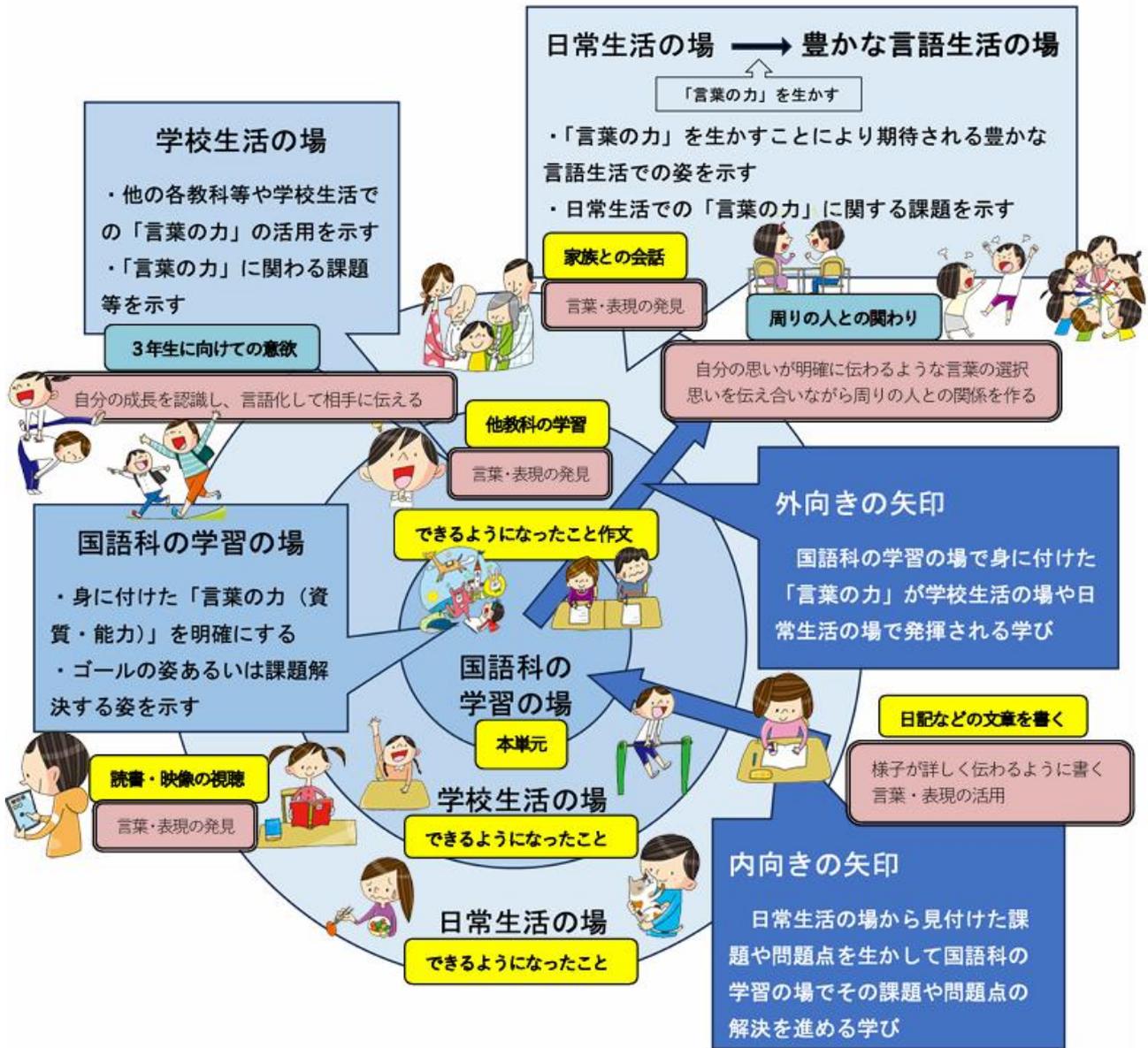
言語部が目指す豊かな言語生活とは、言葉そのものへの興味・関心をもったり、意識して言葉を使い、よりよく人と関わったりしながら生活することである。他者とつながり関わり合いながら、自分で考え意思決定し、社会の一員として生きていくためには言葉が不可欠である。言語部では、豊かな言語生活を「言葉そのものへの興味・関心」「自己内対話」「他者とのコミュニケーション」の三つの側面から捉えており、三つの側面を行き来しながら生活していくことで、言語生活がより豊かなものとなっていくと考える。(別紙資料③参照)

言語部では、実生活の中に課題を見付けて単元化し、単元の学習を通して高まった言葉の力が実生活に還元していくような単元づくりを心掛けている。

本単元では、できるようになったことについて、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫を短い文にするか、読む札作りを通して、「自分の思いが明確に伝わるように言葉や表現を比較・検討し、判断・選択する」こと、「短い文を書くためには言葉や表現を比較・検討し、判断・選択する」こと、「相手のために言葉や表現を比較・検討し、判断・選択する」ことで、相手との関係が広がったり深まったりすることを学習する。この単元後には、札を増やしたり新たな題材で作り続けたりすることもでき、自分の思いや伝えたいことを明確にするために言葉や表現について継続して考えることができる。

また、本単元は自分ができるようになったことから学習が始まり、この学習中や学習後には実際に試したり相手ができるようになったことに興味・関心をもち挑戦したりするなど、学習、学校生活、日常生活の場面を往還する単元である。実生活と学習を往還しながら学ぶ経験を重ねていくことで、児童の語彙を豊かにしていくことができる。そのことが、児童の言語生活を豊かにしていくことにつながるのである。(p.9 図①参照)

【図①「言葉の力」を生かすことで、豊かな言語生活を実現することについて】（都小国研：6月）に追記



参考 「豊かな言語生活者を育てる ―国語の単元開発と実践―」 桑原隆 編著

5 単元計画（全6時間）

過程(次)	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
	課外	1 第2学年になってできるようになったことを150～200字程度で具体的に書く。	○どうやったらできたのか、できたときはどんな様子だったのかを詳しく書くよう促す。	
第一次 出会う	1	1 できるようになったことを全体で共有する。 2 かるたで遊んだ経験を想起し、できるようになったことを集め、言葉や表現を選択してかるたにするという見通しをもつ。	○できるようになったことがたくさんあることを確かめ、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を書いている文章を紹介する。 ○経験したことをかるたにすることで、できるようになった喜びを残せること、遊びながら友達のできるようになったことを共有できるように気付かせる。	
	課外	○教室にかるたを置き、自由に遊べるようにする。		
	2	1 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 縄跳びの学習を振り返り、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を思い出し、グループで言葉や表現を集める。 3 集めた言葉や表現を使い、グループで短い文を書く。 4 できた文を発表し合い、様子を詳しくする言葉や表現について考える。	○題材の決定から記述、推敲までの学習過程を共通の題材を用いて行い、第3時からの学習の見通しをもてるようにする。 ○個人で考えた言葉や表現を集め、グループで相談しながら短い文を書くようにする。 身に付けたい力を意識する場面 ○オノマトペ、比喩、程度を中心に、児童が書いた文の言葉や表現を取り上げ、「語句をより理解するための方策」を使って伝えたいことを明確にすることを意識できるようにする。	
第二次 親しむ	3	1 自分が伝えたい題材と個人課題を決める。 2 できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を思い出し、言葉や表現を集める。	自ら学びを進める場面 ○題材が決まったら一覧に整理して掲示する。 ○まずは自分で考え、その後友達に相談して言葉や表現を集めてもよいことを伝える。 ○「ことばカード」を読み返してみるよう助言する。 ○友達と相談して加えた言葉や表現は青色で書くよ	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>ワークシート・観察</u> ・粘り強く経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって書こうとしているかの確認

「学びの手引き」に沿って個々のペースで学習を進める	4	<p>3 集めた言葉や表現の中から伝えたいことが明確になる言葉や表現を選択し、短い文を書く。</p> <p>4 書いた文を友達と読み合ったり、実際に試したりして、絵札に描きたいことと合わせて、自分の思いや伝えたいことが明確になっているかを確認する。</p>	<p>うに伝える。</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせる場面</p> <p>○自分の伝えたいことに合う言葉や表現はどれかを考え、使いたい言葉を選択するよう助言する。</p> <p>○文をいくつか書き、読み比べてみるよう助言する。</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせる場面</p> <p>○同じことができる人に読んでもらい、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫等、自分の思いや伝えたいことが明確になっているかを確認するよう助言する。</p> <p>○まだできない人に読んでもらい、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫等、自分の思いや伝えたいことが明確になっているかを確認するよう助言する。</p> <p>○自分の思いや伝えたいことがより明確に伝わる文になるよう、見直したり書き直したりするよう促す。</p> <p>○絵札と読み札を合わせて考えるよう促す。</p>	<p>〔思考・判断・表現①〕 ワークシート</p> <p>・自分の思いや伝えたいことについて、できたときの様子、経験を通してつかんだ方法や工夫を表す言葉や表現を選んで短い文で書いているかの確認</p>
	5	<p>5 絵札とも合うように文を書き直したり、決定したりする。</p> <p>6 絵札と読み札を仕上げる。</p>		
第三次生かす	6	<p>1 出来上がったかるたで遊ぶ。</p> <p>2 できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を表す言葉や表現についての気付きを出し合い、単元の学習を振り返る。</p>	<p>○題材について焦点化して書くことや、様子、気持ち、方法、工夫が伝わるように言葉や表現を選択して書くことの大切さを実感できるようにする。</p>	<p>〔知識・技能①〕 ワークシート</p> <p>・事物の内容を表したり、経験したことを伝えたりするための様々な言葉や表現があることに気付いているかの確認</p>

6 本時の学習（4/6）

(1) 本時のねらい

できるようになったことについて、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫等、伝えたいことが明確になるように、言葉や表現を選択して短い文で書くことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 評価方法
<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材と個人課題を確かめる。 ・本時の学習を自分はどこから始めるのかを確かめる。 ・比喻やオノマトペ、程度を表す言葉や表現を使うと様子を詳しく表せることを確かめる。 <p>③④⑤</p>	<p>○「学びの手引き」とワークシートを参照し、本時の学習の見通しをもてるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">身に付けたい力を意識する場面</div> <p>○前時で児童が集めた言葉や表現、試しに書いた文にある、様子を詳しくする言葉や表現を紹介する。</p> <p>○自分が伝えたいできたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を表す言葉や表現はどれかを考え、言葉を選択するよう助言する。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;">できたときのようすや気持ち、自分がつかんだ方ほうや工ふうが分かる文を書こう</div>		
<p>2 集めた言葉を選択し、短い文で書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「語句をより理解するための方策」 その語句の ①有無 ②言い換え ③経験の想起 ④辞書的な意味 ⑤動作化</p> </div> <p>3 書いた文を友達と一緒に考えたり確かめたりして、自分の思いや伝えたいことが明確になっているかを確かめる。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">言葉による見方・考え方を働かせる場面</div> <p>○文をいくつか書き、読み比べてみるよう助言する。</p> <p>○様子を詳しくする表現に着目し、「語句をより理解するための方策」を使って考えるよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自ら学びを進める場面</div> <p>○学習形態（個人または友達と一緒に考える）を自由に選ぶよう伝える。</p> <p>○題材一覧を見て相手を選び、できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫等の自分の思いや伝えたいことが明確になっているかを確かめるよう助言する。</p> <p>○児童が書いた文を取り上げ、表現の工夫について考える。</p> <p>○本時の振り返りを書く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を表す言葉や表現を考え、友達との対話を通して自分の思いや伝えたいことが明確になる言葉や表現を選択して短い文で書いている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〔思考・判断・表現①〕 ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたときの様子や気持ち、経験を通してつかんだ方法や工夫を表す言葉や表現を選択して、短い文で書いているかの確認 </div>

7 資料

(1) かるた一覧

かるた	特徴	思ったこと	諸感覚	順序	会話	比喻	オマケ	程度
ことばのえほんあいうえおかるた (絵本館)	五味太郎「ことばのえほんあいうえお」を基にしたかるた。「あくびあざらし あそびにあきた」のように頭文字が同じ言葉を使った文が読み札になっている。			○		○	○	○
かつしか郷土かるた (葛飾区教育委員会)	葛飾区の名所、歴史、文化、地形の特徴などが読み札の文になっている。ほとんどの札が五・七・五のリズムで書かれている。			○	○		○	○
江東区エコかるた (江東区環境清掃部温暖化対策課)	日常生活の中で取り組める地球環境を守るための工夫を集めている。児童の描いた絵が絵札になっている。		○	○	○	○	○	
のはらうたかるた (童話社)	工藤直子「のはらうた」の詩が読み札になっている。絵札には詩の作者(かまきりりゅうじ)の絵と名前がかかっている。	○	○	○			○	○

(2) 言葉カード

<p>りゅう・いみじ、うし区なせ」と、うらうり みのことばをききもん」とひょうげん するのを知りたいから。</p>	<p>いつ・どこで・なにから・だれから のと先生がうらうらうらうら 孝んても</p>	<p>ぎもん</p>	<p>りゅう・いみ つくったもの</p>	<p>いつ・どこで・なにから・だれから であんしれんうらうらうらうらにがりて あった。</p>	<p>さくひん</p>
---	--	------------	-----------------------------------	---	-------------

「学びの手引き」

学習のめあて

組番

Blank box for writing the learning goal.

① かるたにする「できるようになったこと」と、自分のかだいをきめる。

- ・〇〇ができたときの気持ちをしつてほしい。
- ・〇〇ができたときのようすをつたえたい。
- ・〇〇ができたときにはつ見した方ほうをしらせたい。



② 言葉をあつめる。

「できたときのようすや気持ち」「れんしゅうして分かったことやエふう」を考えて、言葉をあつめよう。

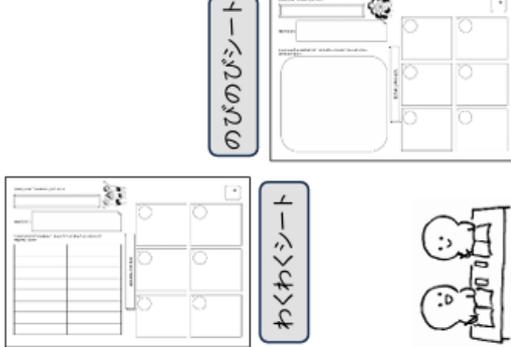
友だちに聞いてみるのもいいね。

- ・できた時は、どんなかんじがしたかな。
- ・一番大じなことは何かな。
- ・じゆん番に言葉を書きしてみよう。
- ・音であらわすと、どんな音になるかな。
- ・「くみだい」つて書くとつたわるかな。
- ・ようすをあらわす言葉を書きしてみよう。
- ・友だちに聞いたら、つかえそうな言葉がふえたよ。

こまったら、いつでも友だちとそうだんしよう

のびのびシート

わくわくシート




もう一まいかるたの文を書くコース

⑥ 読みふだをせい書する。絵ふだをし上げる。

⑤ かるたの文を直したり、絵ふだのイメージと合わせて決めたりする。

- ・友だちはどうしてこの言葉の方がいいつて言つたのかな。
- ・言葉のじゆん番も考えてみた方がいいかな。
- ・この言葉のほうがいいと思つから、この言葉をつかつて書こう。
- ・やっぱりこの言葉の方がつたわると思つ。
- ・自分が言いたいことは、こちの言葉だな。
- ・この言葉なら、絵ふだとも合うかな。

④ 友だちと読み合つてたしかめる。

- ・「こつやるとできたよ」がこの言葉で分かるかな。
- ・この言葉よりいい言葉つてあるかな。
- ・この言葉とこの言葉どちがいとと思つ。
- ・こついうことを書きたいんだけとどの言葉もつかつたらいいかな。
- ・自分だつたらこつ書くよ。
- ・こちの言葉の方が分かりやすいと思つよ。
- ・この言葉の方が、絵ふだと合うと思つよ。

③ かるたの文を書いて、絵ふだのイメージをもつ。

「できたときのようすや気持ち」「れんしゅうして分かったことやエふう」がつたわると思つ言葉をえらんで、みじかい文で書こう。

- ・この言葉なら、言いたいことがつたわるかな。
- ・どちの言葉の方がつたえたいことや絵ふだと合うかな。

(4)ワークシート①「わくわくシート」

かるたにする。てまるよになつたこと

自分のかだい
百人一首ができた時の
うれしい気もちをつたえたい

てきたときのよすや気もち、れんしゅうして分かつたことやせう
きはあつたよす

かるたにする。てまるよになつたこと

百人一首

パンパン	れんしゅう
ハイッハイッ	たくさんした
たくさんとれた	気もちいい
ワクワクする	こころがかがやく
ドキドキした	こころがはれる
三十五まいい上	フーッ
友だちとよろこぶ	やったあ
ドキンドキ	よかったなあ
	サツととる

おためしのかるた

①	パンパン	たくさんとれた 海がキラッと かがやくよう
②	ハイッハイッ	たくさんとれたよ こころもキラキラ
③	パンパンと	三十五まい こころがかがやく
④	三十五まいい上	パンパンととる音 気もちいい
⑤	やったあと	友とよろこぶ いい気もち
⑥	ドキンドキン	ふたがとれると フーッためいき

36番

かるたにする。てまるよになつたこと

自分のかだい
もしかめをするくふうを
つたえたい

てきたときのよすや気もち、れんしゅうして分かつたことやせう
きはあつたよす

かるたにする。てまるよになつたこと

けん玉

もしかめ	くどうさんを見る
ひざまげてトントン	毎日れんしゅう
リズムととる	むずかしい
カナカナとはまる音	一年生でほできなぐた
歌に合わせて	れんぞくでできた
空とべそ	うれしい
	気もちいい

おためしのかるた

①	もしかめ	ひざまげて トントントン
②	れんぞくでできた	もしかめ気もちいい
③	トントンと	ひざまげて リズムをとるよ
④	毎日れんしゅう	歌に合わせて カナカナとはまる
⑤	カナカナとはめ	ひざまげて れんぞくで
⑥	空とべそ	うれしい毎日れんしゅう がんばった

40番

②「のびのびシート」

かるたにする。てまるよになつたこと

自分のかだい
百人一首のふたをたくさん
とるエふうをつたえたい

てきたときのよすや気もち、れんしゅうして分かつたことやせう
きはあつたよす

かるたにする。てまるよになつたこと

百人一首

ふたがとれた
おぼえる
声をだす
たくさん
れんしゅう
パンパンと
音を出す
なごやみに
聞いてみた
今は
35まい
名人に
なれた
1年生の時は
まいも
とれなかつた

おためしのかるた

①	がんばって	おぼえてみたら パンパンパン
②	たくさん	れんしゅう できたら ワイワイ
③	れんしゅう	フフフていこう 三十五まい
④	れんしゅうしたら	パツとはれる わたしのこころ
⑤	パンパン	たくさんおぼえて とってみた
⑥	ハイッとね	大きな声出し ふたをとる

36番

かるたにする。てまるよになつたこと

自分のかだい
もしかめができたときの
うれしい
気もちをつたえたい

てきたときのよすや気もち、れんしゅうして分かつたことやせう
きはあつたよす

かるたにする。てまるよになつたこと

けん玉

気もちいい音
トントン
リズムをとる
カナカナとはまる
歌に合わせて
毎日れんしゅう
空とべそ
かめはよくかた

もしかめ
れんぞく
くどうさん
まじい
わらわら
なりました

おためしのかるた

①	ひざまげて	歌に合わせて リズムととる
②	カナカナとはめ	ひざまげて れんぞくで
③	歌に合わせて	ひざまげて トントントン
④	空とべそ	トントンカナカナ もしかめ大せいこう
⑤	毎日れんしゅう	つくれたけれど もしかめで 気もちよくとびはねた
⑥	気もちいい音	カナカナとはまる音 もしかめれんしゅう がんばったわたし

40番

(5)自己紹介作文、指導者作成かるた

二年生になってできるようになったこと

「もしかめ」ができたよ

わたしが二年生になってできるようになったことは、けん玉の「もしかめ」です。

一年生のころは、たまにしかけん玉がうまくなかったのですが、「大ぶら」しかできませんでした。二年生になって、くどうさんが「じょうずに、もしかめ」としているのを見て、わたしもできるようになりたいと思うようになりました。だから毎日学どうでけん玉をしました。くどうさんに、「どうやら、そんなにじょうずにできるの？」と聞いたら、「トントントンとひびきをまげてリズムをとると、できるよ」と教えてもらいました。それから毎日学どうでけん玉をしました。できたときは、空までとんで行けそうなくらいうれしかったです。



30 ばん

カ カチカチとはめ
ひびでリズム
れんぞくで



カ カチカチはまる音
もしかめけん玉
がんばったわたし

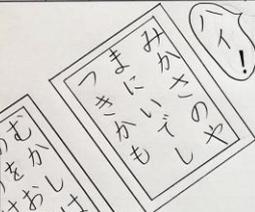


二年生になってできるようになったこと

たくさんとれるようになったよ

わたしが二年生になってできるようになったことは、百人一首です。一年生の時は、ふだが一まいもとれませんでした。親友のなごやさんが、ふだをバン！パン！とどろすがたがかこよくて、わたしもがんばっておぼえたという気もちになりました。ある時、なごやさんに、「どうしたら、ふだがたくさんとれるようになるの？」と聞いたら、「毎日、お姉ちゃんとけん玉していろよ」と教えてくれました。それから、わたしも百人一首のふだをとるけん玉をつづけました。

二年生の冬の百人一首大会では、三すまいい上とれて、名人にされました。その時は、まるで、海がキラキラとかがやくくらい、わたしのバもかがやいて、うれしかったです。



三十一 ばん

ハ ハイッとね
大きな声出し
ふだをとる



ド ドキンドキン
ふだがとれると
フッとためいき



(6)振り返りシート

振り返りシート		振り返りシート	
日	項目	日	項目
2	二	5	二
3	三	6	三
4	四		